

いくの de リノベ

「好き」と「やさしさ」の家

今回は、前号の「IKUNO×グローバル」にご登場のフェルナンドさんと、大橋さんご夫妻のお住まい。築30年超の長屋をリノベーションし、住居兼アトリエのほか、ワークショップの開催場所としても活用。

画家であるフェルナンドさんのアトリエをつくるために引越した今の家は、前の住人により一度改修されていて大掛かりな改修の必要がなく、クロスや張替や傷んだ床・畳の交換程度だったそう。「トイレのレトロなタイルとか、扉に貼られた日焼けしたPTAの標語とか。この建物の歴史が分かるところがオモシロイ。」と教えてくれました。



玄関から奥へと順に部屋が続く長屋らしい間取り。1階奥にあるキッチン・ダイニングは、長屋の角地の特性を活かした並んだ窓による明るさと風通しの良さが魅力。

キッチン・ダイニングの隣につながるアトリエ。床の間がある「和風」の部屋と、黒・赤を基調とした「現代的」なフェルナンドさんの作品という、相反する2つが自然に溶け込み、独創的な雰囲気と温かさを感じます。フェルナンドさんは「ここで絵を描いている時間が一番好き。」なのだとか。

「アトリエに対抗して作った(笑)」と案内されたのは、2階の大橋さんが趣味でされる洋裁の部屋。大胆な壁の柄と配色にまず目を奪われますが、収納用品や雑貨、収集した手芸用品・生地も個性的なものばかり。訪れた国々で

手に入れたものも多いのだとか。各国独自のデザインが調和した多国籍・多文化な空間は、旅に出たようなワクワクが止まらない。

大橋さんは「ダイニングの床で、ゴロゴロするのが好きかも。板の質感が好き。」と笑う。「あと、ベランダで食事したりする時間も。」とお気に入りのご夫婦で過ごす時間のよう。そんな大橋さんをフェルナンドさんは嬉しそうに見守っていました。ご夫婦が暮らす家は、お互いの歴史、好きなもの、時間を大切に、尊重しあう場所。そこには暮す家の歴史まで楽しめる大人のご夫婦のお互いを思う「やさしさ」が詰まっていた。



▲生野本通り商店街から脇道に進むと見えてくるお住まい。大型店舗が多い大通りの近くにありながら、お住まいの近くは、商店街をはじめとした個人商店が並ぶ懐かしい景色です。

いくのdeリノベの取材の様子や詳しい情報をブログでご紹介しています。



素敵な“お隣さん”を紹介してください!

「いくのdeリノベ」では、生野区らしいリノベーション暮らしを紹介します。(他薦のみ)

お隣さんの条件 生野区在住で古い家屋をリノベーションし、自分らしく暮らしている方

応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。

(電話・FAX・郵送で受付)

①あなたのお名前・ご連絡先

②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所

(可能であれば連絡先)



問合せ 企画総務課 ☎6715-9683 FAX6717-1160 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら⇒☎6715-9734

IKUNO×グローバル

(ニーハオ) 你好! こんにちは!

葉昇希さん (ヨウ ショウキ)



中国出身。学生。大学で看護師資格を取得。卒業後1年ほど日本語を勉強。日本での看護師資格を取るために生野のまちに来て2年目。今は看護と日本語の専門学校に通いながら、病院で介護のアルバイトをする毎日。多忙な中、休日は生涯学習ルームで社交ダンスを習っている。

社交ダンスは楽しい?

踊るのが好きなんです。日本に来て初めて社交ダンスをはじめたんです。ひとつひとつのステップは難しいけど、頑張って練習すればするほど気持ちよく踊れる。特にチャチャチャが好き。学校に通って、アルバイトもして、ダンスを覚えるのも大変だけど、教室でみんなと頑張って踊る時間が楽しいです!

生野のまちはどう?

生野のまちで出会った人たちは本当にやさしい。生野区は学校に近かったので住むことになったんです。知り合いも友達もない2年前、毎朝、近所の公園で本を読みました。そんな私に声をかけてくれたのが、公園を掃除していたおばちゃん。うれしかった。おばちゃんとの会話が本当に楽しかった。グランドゴルフにも誘ってもらって、試合にまで参加しちゃいました。社交ダンス教室のみんなも、公園のグランドゴルフのみんなも、何もわからなかった自分にとっても親切にしてくれた。公園でひとり本を読んでいた2年前とは別世界。今はやさしくて楽しいみんなに支えられながら、前に向かっていきます。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみんな通信



切子ガラス工芸研究所 たくみ工房

伝統技術と新しい挑戦が生み出す輝き “たくみ切子”



代表 高橋 太久美さん



ピックアップ 生野 ものづくり百景

ガラス製品の表面をカットし、美しい模様を浮かび上がらせる技法を「切子」という。日本へは幕末に長崎を経て大阪に伝わり、各地へ。そこから江戸、薩摩で「江戸切子」、「薩摩切子」として開花した。高橋さんは、高校卒業後に切子の世界に入られ、23歳の時に独立。大きな転機は30代後半に、百数十年間途絶えていた「薩摩切子」の復元という大仕事に参加したこと。

高い技術に芸術性の高さが特徴の「薩摩切子」。高橋さんは、この薩摩切子の技法に、モダンなデザイン、手作業による磨きを加え、美しい輝きを放つ「たくみ切子」を生み出した。日本伝統工芸近畿展8回連続入選、新美芸会展での受賞などの実績を持つ。また、海外で展示会を開催するなど「たくみ切子」はまさに芸術品として高く評価されている。さらに、後継者育成のために開かれている教室には遠方からもたくさんの方が通う。オリジナルグラスを作りたい方から作家志向の方まで、目的に応じた指導を行い、切子の技術を未来へ伝えている。

生野ものづくり百景について、詳しくはホームページをご覧ください。

生野区 ものづくり百景

